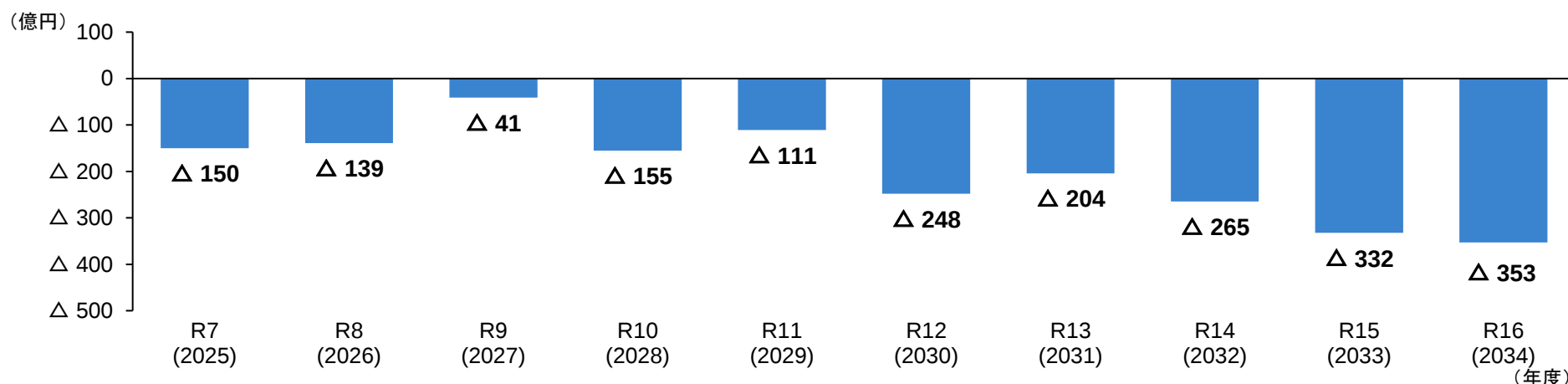


今後の財政収支概算(粗い試算) 2025(令和7)年2月版

たゆみなく市政改革に取り組み「収支の均衡」をめざす

- 大阪市は、将来世代に負担を先送りしないため、「収入の範囲内で予算を組む」ことを原則とし、「収支の均衡」をめざすこととしています。
- 財政収支概算(粗い試算)は、そのために必要となる収支改善の目安を一定の前提により試算したものです。

収支の推移(一般会計)



高齢化の進展や障がい福祉サービス利用者の増加等に伴う扶助費の増や令和6年度の給与改定による人件費の増などにより、試算期間を通じて収支不足が生じる見込み

たゆみなく市政改革に取り組み、持続可能な財政構造を構築する

※決算では、平成元年度以降36年連続で黒字を維持

※財政調整基金残高(令和6年度末) 2,869億円

※この試算は現時点で見込むことができる条件を前提に推計したことから、多くの不確定要素があり、相当の幅をもって見る必要がある

大阪市におけるSDGsの取組①

SDGsの理念を取り込んだ総合戦略を策定し、引き続き「経済・社会・環境」の3側面から取組を積極的に推進

大阪市未来都市創生総合戦略(2024年3月策定)

戦略の方向性

一人ひとりが多様な幸せ(Well-being)を実感でき、
誰もが安心していつまでも住み続けたいと思う「にぎやかで活気あふれるまち大阪」の実現をめざす

趣旨

大阪市が将来にわたって持続可能な都市として成長・発展していくため、大阪市人口ビジョン等を踏まえ、政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策を取りまとめるもの

対象期間

2024年度から2028年度までの5年間

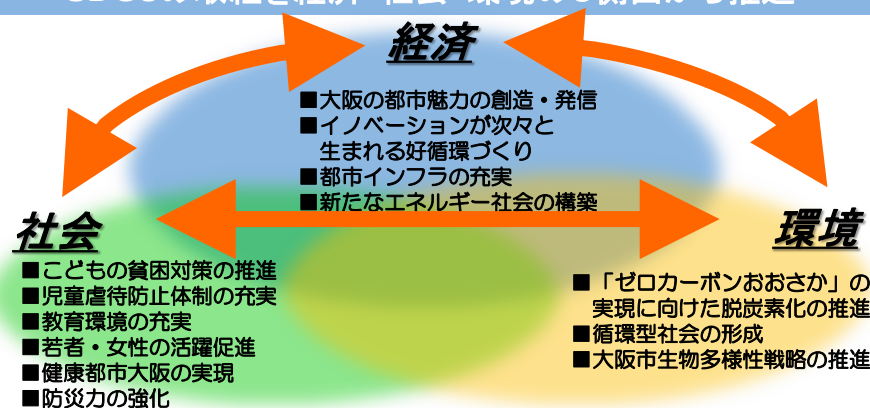
推進体制

市長をトップとする「大阪市未来都市創生会議」において、進捗管理を行いながら、全庁的に推進

基本目標

- ① 未来を担う人材を育成するとともに誰もが活躍できる社会をつくる
- ② 健康で安心して暮らし続けられる地域をつくる
- ③ 魅力と活力あふれる大阪をつくる
- ④ DXの推進を通じてそれぞれの幸せを実感できる都市への成長・発展につなげる

SDGsの取組を経済・社会・環境の3側面から推進



大阪府・大阪市SDGs未来都市計画

2020年度に大阪府と大阪市が「SDGs未来都市」および「自治体モデル事業」として内閣府より選定

概要

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる大阪・関西万博の開催都市として、行政だけでなく、府民や企業、市町村、金融機関、経済界などあらゆるステークホルダーとの連携を広げつつ、2030年のあるべき姿に向け、一人ひとりがSDGsを意識し自律的に行動する「SDGs先進都市」の実現をめざす

自治体モデル事業

3側面をつなぐ統合的取組

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」
推進事業

大阪市におけるSDGsの取組②

目標年次である2030年までの取組工程

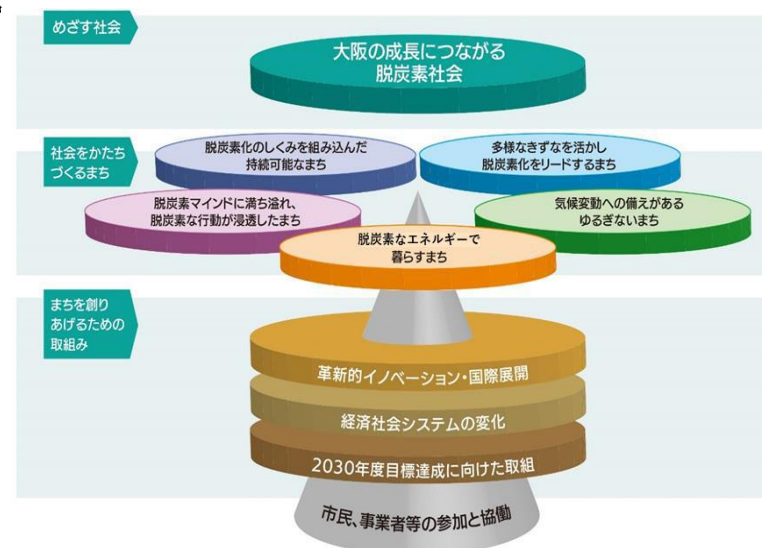
2025年万博に向け、「SDGs先進都市」としての基盤を整え、2030年SDGs目標年次に向けた取組の促進を図り、万博のレガシーとして「SDGs先進都市」を実現



環境先進都市大阪の実現

- 脱炭素社会、循環共生型社会の実現に向け、大阪・関西万博で示された先進的な技術や仕組みの実装、普及拡大を加速し、環境と成長の好循環を推進します。
- 特に、2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロをめざす「**ゼロカーボン おおさか**」の実現に向け、再生可能エネルギーの普及拡大・エネルギー消費の抑制等の気候変動対策に取り組めます。
- 徹底した省エネや再生可能エネルギーの普及促進などにより、エネルギーコストの低減とエネルギーセキュリティの向上に取り組むとともに、大阪の成長や市民の安全・安心な暮らしを実現する脱炭素化時代の「新たなエネルギー社会」の構築を先導します。

「ゼロカーボン おおさか」に向けたスキーム



KPI(指標)	目標値	2013年度 (平成25年度)	2022年度※暫定 (令和4年度)
市域の温室効果ガス 総排出量	2030年度までに50%削減 (2013年度比)	2,076 万トン-CO2	1,726 万トン-CO2 ▲16.9%

(参考)グリーンボンドの発行について

- ・本市では、気候変動の緩和策・適応策を行うための資金調達としてグリーンボンドを発行し、持続可能な開発目標（SDGs）やパリ協定の目標達成に貢献する取組みを進めてまいります。
- ・大阪市グリーンボンドによる調達資金は、持続可能な社会の実現に資する事業に充当します。

令和6年度大阪市グリーンボンドの概要

公債の名称	大阪市第3回公募公債（グリーンボンド）（5年）
発行日	令和7年1月28日（火）
年限	5年債
発行額	80億円
参加投資家数	43件（うち投資表明 37件）
資金使途	大阪市グリーンボンドフレームワークに準拠（次頁参照）
第三者評価	国際資本市場協会（ICMA）によるグリーンボンド原則2021及び環境省グリーンボンドガイドライン2022年版との適合性について、格付投資情報センター（R&I）より第三者評価を取得

(参考)グリーンボンドの発行について

大阪市グリーンボンドによる調達資金の使途

プロジェクト分類	主なプロジェクト	想定される便益
エネルギー効率	下水道事業	下水処理場で発生する温室効果ガスの排出削減
クリーン輸送	なにわ筋線事業	旅客鉄道の使用推進による温室効果ガスの排出削減
気候変動適応	- 埋立地の浸水対策(高波等に対する浸水対策) - 無電柱化事業	自然災害リスクに対する防災機能の強化
	うめきた2期区域のまちづくり (大深町地区防災公園街区整備事業)	ヒートアイランド現象による気温上昇の抑制



うめきた2期区域のまちづくり



下水道事業



埋立地の浸水対策



無電柱化事業

※提供：グラングリーン大阪開発事業者